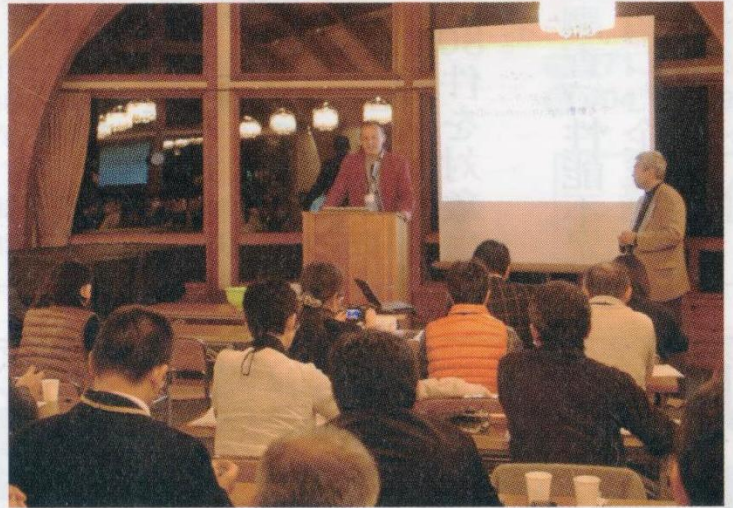


## ストレス要因より少なく



IBN代表のヴィンフリート・シュナイダー氏を招いて行った「B・A・U会議 in 日本」。11月23日の基調講演

のために配慮すべき項目には常に検討が加えられ、対象範囲も広がっていると説明した。

そのうえで、住まいづくりのガイドラインとして「バウビオロギー25の指針」について言及。「工業地帯の中心や幹線道路から住居地を離す」「室内の湿気を吸放湿性のある建材で調節する」「色・照明・自然採光

ため、あらゆる手段で情報発信し、地域のなかでの広がりを見出している」と話した。

実際、そうした活動から地域に測定の特設家がいると知り、電話をしていく人が増えているという。15分程度の電話相談は無料で、それで済まなければ有料相談、現地調査へと移行。「個々にケースが異なるので、ネットワークをつくりながら専門家が情報を共有していくことが重要」と説いた。

# 住まい指針や環境測定で日独対話

日本バウビオロギー研究会(BIJ、群馬県前橋市)は11月23日〜25日、ドイツからバウビオロギー・エコロジー研究所ノイボイエルン(I BN)代表のヴィンフリート・シュナイダー氏を招き、長野・軽井沢町で「バウビオロギー+建築+環境医学(B・A・U)会

議in日本」を開催。住宅に携わる建築士ら延べ約50人が参加した。

「B・A・U会議in日本」では同氏のほか、土田直樹氏(レジナ代表)、浦尾弥須子氏(日本鋼管病院・こ

初日の講演でシュナイダー氏は「バウビオロギーを通じ、現代のストレス要因をより少なくすることが課題。(生活者に対し)リースクの少ない選択を示唆する必要がある」と指摘。そ

のバランスを取る」など、環境医学と関連深い項目を解説した。

またIBNに寄せられた健康相談と、それに対する環境測定の結果、改善提案の事例を報告。現在、IBNには50人の測定専門家がおり、「健康問題で困っている人との接点をつくる

フリート・シュナイダー氏を招き、長野・軽井沢町で「バウビオロギー+建築+環境医学(B・A・U)会

京都市大学教授)が講演。会員によるプロジェクト紹介なども行った。